サンガカップ
第38回 京都少年サッカー選手権大会

# 紫光が連覇

## 太秦A破る

６日、西京極陸上競技場で決勝と3位決定戦を行った。決勝は紫光が２－０で太秦Aに勝ち、２年連続18度目の優勝を決めた。

紫光は後半16分にFW長谷川裟恭選手のシュートで先制した。終了間際には、MF吉村寛太選手が追加点を挙げ、突き放した。

３位決定戦では葵が２－０で長岡JFC・Jを破った。

（田中俊太郎）

▽３位決定戦

葵　２（０－０、２－０）０　長岡JFC・J

▽決勝

紫光　２（０－０、２－０）０　太秦A

【紫光】

山中村本斗本賀原寛川駿

村　村谷村

浦山木山松岩多杉古長吉

GK　DF　MF　FW　SH 12　FK 0

SH 2　FK 6

林村拓尾名蒼田部田坪木

上　上

小森井平山井藤服石五鈴

【太秦A】

▽交代【紫】明石（多賀）【太】中尾（藤田）、中村（石田）

ドリブルで果敢に攻め込む紫光の長谷川裟恭選手（10）＝西京極陸上競技場

## エース冷静、先制弾

### 5年生が追加点

**紫光**

試合終了のホイッスルが鳴ると、紫光イレブンは歓声を上げた。DF松村斗吾主将は「チームが一丸になっていた。勝ててうれしい」とはにかんだ。

試合は前半から紫光ペースだった。サイドを起点に相手ゴールに迫り、何度も好機をつくった。だが、相手の粘り強い守備に苦しみ、逆にカウンターを浴びる場面もあった。

前半を終えて０－０。均衡を破ったのは、エースだった。後半16分。DF山中斗眞選手の縦パスに、長谷川選手が素早く反応。相手DFラインの裏に抜け出すと、右足でゴール右隅へ冷静に流し込み、今大会８点目を挙げた。前半は再三のチャンスにも「力んでいた」と無得点だっただけに、長谷川選手は「やっと決められた」とほっとした表情を見せた。

終了間際には、先発で唯一の５年生吉村寛選手がFW吉村駿輝選手の横パスをスライディングで押し込み追加点。２連覇をぐっと引き寄せた。

長谷川佳弘監督は「連覇できたのは保護者やクラブがサッカーができる環境をつくってくれたおかげ」と周囲のサポートに感謝した。吉村寛選手は「来年は6年生で最後の大会になる。3連覇したい」と見据えた。

## プレスで食い下がる

### 太秦A

太秦Aは持ち前の積極的なプレスで最後まで食い下がったが、３年ぶりの優勝にはあと一歩届かなかった。本井幸児監督は「相手が強かった。予想以上に押し込まれた」と完敗を認めた。

前半から粘り強い守備が光った。再三サイドを崩されゴールに迫られたが、体を張って得点を許さなかった。後半は前線から積極的なプレスを仕掛け、素早い逆襲で得点機をうかがった。１トップを務めたFW鈴木雅人選手もスピードを生かして何度もゴールに迫ったが「持ちすぎてシュートまで行けなかった」と無得点。逆に、後半16分に守備の隙を突かれ、決勝点を奪われた。

相手のドリブルに厳しく体を寄せる平尾優梧選手（80）ら太秦Aイレブン

「１点入ってから気持ちが落ちてしまった」とMF五坪天智主将。それでも１点差やPK戦での接戦を勝ち抜き、堂々の準優勝。「優勝したかったけど、小学校最後の試合で決勝まで行けたのはよかった」と穏やかに語った。

## 積極策奏功

### 後半２得点

#### ３位の葵

○…積極的にゴールを